

谷根千工房との交流（第四回 全国の歴史文化まちづくり紹介）

地域雑誌 谷中・根津・千駄木 「谷根千工房」に、山崎さん仰木さんを訪問
住みあうことの楽しさと責任をわけあい町の問題を考えていく！

今や、多くの観光客が訪れる谷中・根津・千駄木の地域、3月の肌寒いある日、千駄木にある「谷根千工房」を訪ね、暖かく美味しいお茶とお話をひとしきり聴かせて戴きました。

この地域は戦災から免れ多くの歴史的建築物やお寺、霊園、緑地などが残り落ち着いた街なみが現在も続いています。このまちの歴史や文化を知りまちの美しさを残したいと、30代の主婦3人が集まり自宅を事務所にして1984年に「谷根千」を創刊、市井にすむ人々の声を丹念に記録しそこから拾い上げた課題解決のために谷根千だけでなく東京駅を中心とする丸の内の景観保存運動、東京駅の復元等にも関わっていききました。

「谷根千」は終刊し10年となりましたが森まゆみさん、仰木ひろみさん、山崎範子さんの其々は現在も地域に根ざした歴史的景観や保存再生運動に精力的な活動を続けています。

素朴で淡々と語るお二人
しかし、しなやかに運動を続ける熱き想いに触れたひと時でした。



谷根千工房様の蔵にて撮影

事務局からのご案内とお問合せ先

- ・Eメールアドレスをご登録し、セミナー情報・ニュース等をご案内致します！
よろしければ、お名前（フリガナ）ご記載のメールを下記当会アドレスまでお送りください。
- ・会員・市民の皆さまからのご意見を、今後ともお寄せください！
- ・当会資料をご入用の際は、下記お問合せ先までご連絡ください。ホームページにも掲載しております。
当会は2004年市民運動「江戸城再建を目指す会（後のNPO法人）」を創立以降12年の運動の集大成として2017年1月に一般財団法人を設立し、現在に至りました。詳細は「これまでの歩みから現在に至るまで」をご覧ください。
*現在のNPO法人「江戸城天守を再建する会」は、天守単体の復元を目指し世論喚起の活動を旨としております。当会の江戸城全体整備構想における事業や運動論とは異なる活動をしておりますので、ご留意頂きますようお願い申し上げます。

【編集後記】久しぶりの「全国の歴史文化まちづくり紹介」となります。（Y）コロナホームワークが続きます。外出はマスクに眼鏡に帽子にコートが馴染みます。江戸の疫病フェイスブックをご覧ください。（U）

一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-20 ワカヤギビル 503 号
Eメール info@zaidan-edojo.or.jp
電話 03-6261-6812 FAX 03-6261-6813
ホームページ https://zaidan-edojo.or.jp/
開局日時 毎週月曜日～木曜日の午前10時から午後4時迄



テレワーク実施！

一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス(Edo Tokyo Renaissance)

近未来の世界遺産を目指す

江戸城・城下町ルネッサンス

2020年 4月26日

第7号

ご案内

首都東京における 江戸東京歴史文化まちづくりに向けて
江戸東京歴史文化まちづくり展開構想
谷根千工房との交流（第四回 全国の歴史文化まちづくり紹介）
事務局からのご案内とお問合せ先

首都東京における 江戸東京歴史文化まちづくりに向けて

日頃より当会の活動に対し多大なご支援を賜り、篤く御礼を申し上げます。

世界はいま、新型コロナウイルスの感染対応に追われています。古来より、人々は“病いは神の怒りを表す”手段であり、その審判は、社会に、家族に、そして、個人に対するメッセージであると云われてきました。人間の環境破壊は神の怒りに触れたのかもしれない。これらコロナがもたらす私達の未来の意識や行動は、個人や社会、世界に大きな変化をもたらすことになるのではないのでしょうか。

今回の基礎調査により、先人達により守られてきた歴史文化遺産を対象に、旧江戸城及び城下町の現千代田区を始めとする8区域の広範囲に及ぶ建造物、史跡等の600ヶ所を踏まえて、歴史文化のゾーニングを7つとして試みたものです。江戸城の5つの城門から放射状に伸びる旧街道を中心に、この界限には、旧江戸城の歴史的建造物や遺構、大名庭園など江戸時代の痕跡を数多くみつけることが出来ます。天守や御殿等の失われた歴史文化遺産も数多く眠っています。徳川幕府が築いた江戸城及び城下町の一方でそれらを支えた人々の生活、最強の要塞であった江戸城の石垣に刻まれた印の跡、江戸の季節や景色の美しさ、街の賑わいをどの様な想いで眺めていたのでしょうか。今回は葛飾北斎や歌川広重の名所絵図などから探りました。

東京は多彩な文化に満ちた革新的なダイバーシティであり、世界各国の文化を受け入れ楽しむことも盛んです。歴史文化遺産が再生されることにより、さらに奥深く多様で魅力的な都市になることでしょう。

さて、経済成長を経て成熟期にある日本は、江戸時代以来蓄積されてきた歴史文化遺産を守ること、即ち、いまあるものを活かし、地域全体として再生し着実に未来に繋げるような新しい“まちづくり”戦略や、その組織化された具体的な実施手法を学び、発展させていかなければならないと存じます。

2019年、東京文化資源会議（伊藤滋会長）は、＝首都東京の歴史文化ゾーンである＝「東京文化資源区」の保全・活用に向けた要望書を、国、東京都、千代田区など関係区に提出されました。当会は、このご説明を受けて皆様に対する敬意を表し、ご趣旨に賛同して参りました。

東京文化資源会議は、2014年に設立されて以来、東京都内の歴史文化資源の保全・活用と文化的基礎に基づいた都市東京の持続的な発展を目標に、活動を続けて来られました。

しかし、都市部の地価高騰、開発促進の影響により、歴史的建造物や緑地、特に屋敷や旅館、商業地区にある近代建築、古くからの商店街など主に相続時の機会に売却、解体される事例が増えております。

こうした状況を踏まえて、研究会では持続可能な開発に資する法制度・事業についての検討を重ね、その成果に基づいて2019年に国、東京都、関係区に要望書として提出されたものです。

新型コロナウイルスの感染拡大が世界を覆い危機にさらされた現代社会は、たとえこの感染症が終結してもこれまでの状態に簡単に復帰はできない、あるいは社会経済の構造が変容していくとする見方が多くの識者から出されています。この現実を確かなものとして受け止め、私達は、壮大なビジョンを想い描き、先人達や歴史文化まちづくりの先例に学び、「天の時、地の利、人の和」の志をもって首都東京の文化芸術の振興、歴史文化まちづくりに貢献すべく、出来るところから、着実に、間断なく、歩一歩、進めて参ります。

今後共 ご支援、ご指導を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2020年（令和2年） 4月26日
理事長 小竹直隆

